



(資 4 - 1)

令和4年度 農福連携等応援コンソーシアム総会

農福連携の支援策等について

令和4年8月2日

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課
農福連携推進室

農福連携の取組促進に向けた支援策



<対策のポイント>

農福・林福・水福連携の一層の推進に向け、障害者等の農林水産業に関する技術習得、多世代・多属性が交流・参加するユニバーサル農園の開設、障害者等の作業に配慮した生産・加工・販売施設の整備、全国的な展開に向けた普及啓発、都道府県による専門人材育成の取組等を支援します。

<事業目標>

農福連携に取り組む主体を新たに創出(3,000件[令和6年度まで])

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 農福連携支援事業

障害者等の農林水産業に関する技術習得、作業工程のマニュアル化、ユニバーサル農園の運用等を支援します。

【事業期間:2年間、交付率:定額(上限150万円等)】

2. 農福連携整備事業

障害者等の作業に配慮した生産施設、ユニバーサル農園施設、安全・衛生面にかかる附帯施設等の整備を支援します。

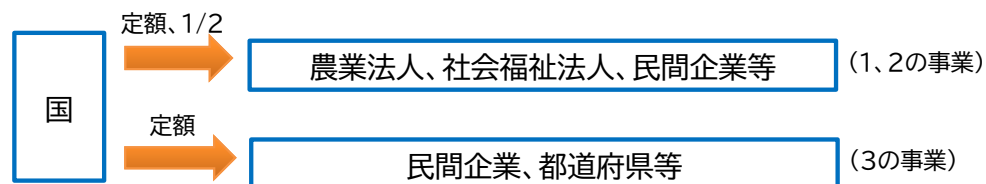
【事業期間:最大2年間、交付率:1/2(上限1,000万円、2,500万円等)】

3. 普及啓発・専門人材育成推進対策事業

農福・林福・水福連携の全国的な横展開に向けた取組、農福・林福・水福連携の定着に向けた専門人材の育成等を支援します。

【事業期間:1年間、交付率:定額(上限500万円等)】

<事業の流れ>



1. 農福連携支援事業



農産加工の実践研修



養殖籠補修・木工技術習得



作業マニュアル作成



ユニバーサル農園※の運用



※ 将来の農業現場での雇用・就労を見据え、多世代・多属性の者が利用できる体験農園

2. 農福連携整備事業



農業生産施設(水耕栽培ハウス)



苗木生産施設



養殖施設



休憩所、トイレの整備



園地、園路整備



処理加工施設

3. 普及啓発・専門人材育成推進対策事業



普及啓発に係る取組



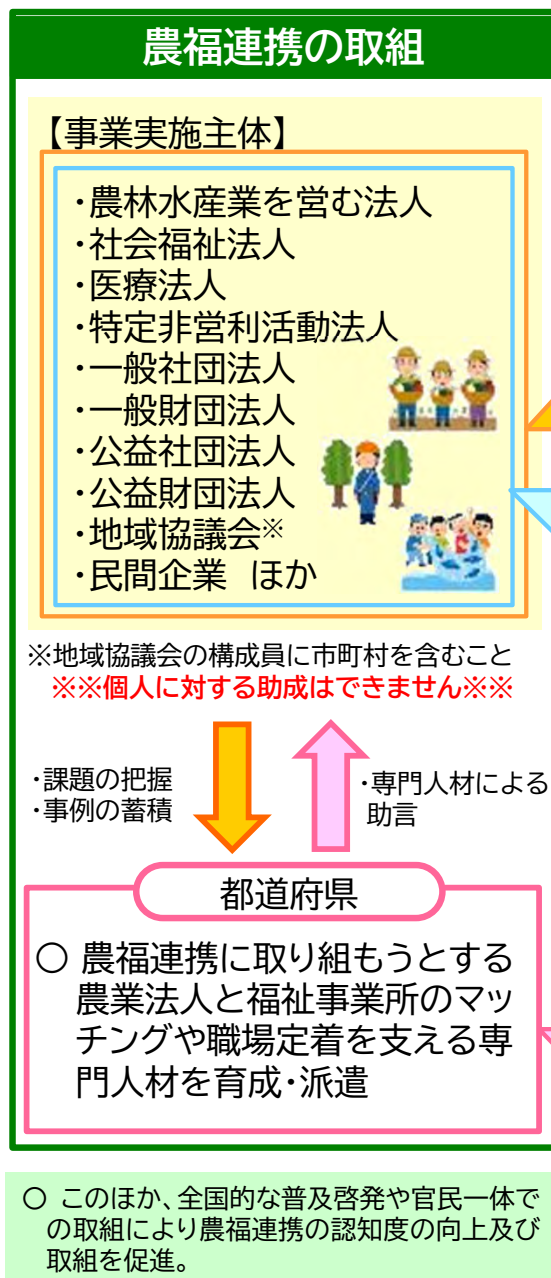
人材育成研修

(関連事業) 優先採択等の優遇措置を実施

- ・強い農業づくり総合支援交付金
- ・林業・木材産業成長産業化促進対策
- ・水産多面的機能発揮対策事業 等

【お問い合わせ先】農村振興局都市農村交流課(03-3502-0033)

- 農福連携に取り組む農業法人や福祉サービス事業者等に対するソフト・ハード一体的な支援
- 都道府県が行う専門人材の育成等を支援



実践団体への支援

都道府県への支援

< ソフト対策 >

技術習得や分業体制の構築

<p>農福連携支援事業</p>	<p>作業の効率化や生産物の品質向上等、農福連携を持続するための取組、ユニバーサル農園※1の導入に必要な経費を支援</p> <p>○専門家の指導による農産物等の生産技術、加工技術、販売手法、経営手法等の習得を行うための研修、視察等</p> <p>○職業訓練的体験を提供するユニバーサル農園の運用初期に必要な管理・指導者の配置、農産物栽培に要する消耗資材等</p> <p>○分業体制の構築、作業手順の図化、マニュアル作成</p> <p>(注)雇用・就労する障害者等の賃金や法人運営費は助成対象外</p>	<p>事業実施期間：2年間（＋自主取組：1年間）</p> <p>交付率等：定額</p> <p>上限：150万円／年</p> <p>300万円／年※2</p> <p>（マニュアルを作成する場合は初年度に40万円を加算）</p>
------------------------	--	--

※1 将来の農業現場での雇用・就労を見据え、多世代・多属性の者が利用できる体験農園

※2 農福連携整備事業（ハード対策）の「経営支援型」を実施する場合。

< ハード対策 >

農林水産物生産施設等の整備

<p>農福連携整備事業</p>	<p>障害者や生活困窮者の雇用・就労、高齢者の生きがいづくりやリハビリを目的とした農林水産物生産施設（農園、園路の整備を含む）、農林水産物加工販売施設※3、休憩所、衛生設備、安全設備等の整備</p>	<p>事業実施期間：2年以内</p> <p>交付率等：1／2</p> <p>上限：下記のとおり※4</p>
------------------------	---	---

※3 加工販売施設に供する農産物等は事業実施主体及び連携する者が生産したものが過半を占めること。

※4 簡易整備型（200万円）、介護・機能維持型（400万円）、高度経営型（1,000万円）、経営支援型（2,500万円）

【農福連携支援事業及び農福連携整備事業の主な要件】

農林水産分野の作業に携わる障害者、生活困窮者（就労に向けた支援計画策定者）、高齢者（要介護認定者）を事業実施3年目までに5名以上増加させること。ただし、生活困窮者については障害者との組み合わせであって、過半数が障害者であること。

< ソフト対策 >

農福連携を支援する人材の育成

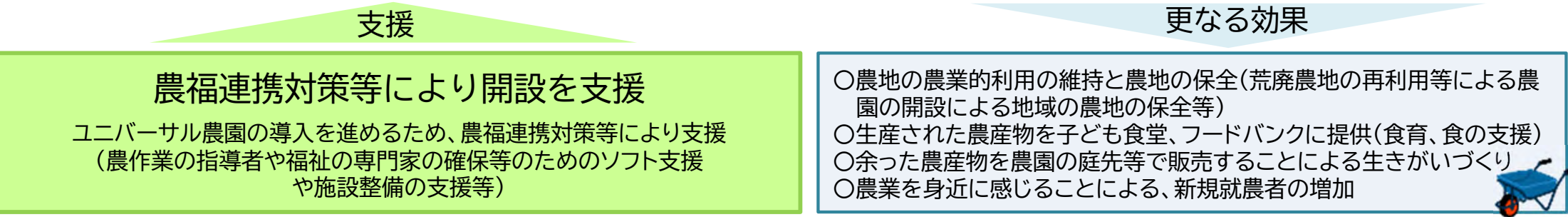
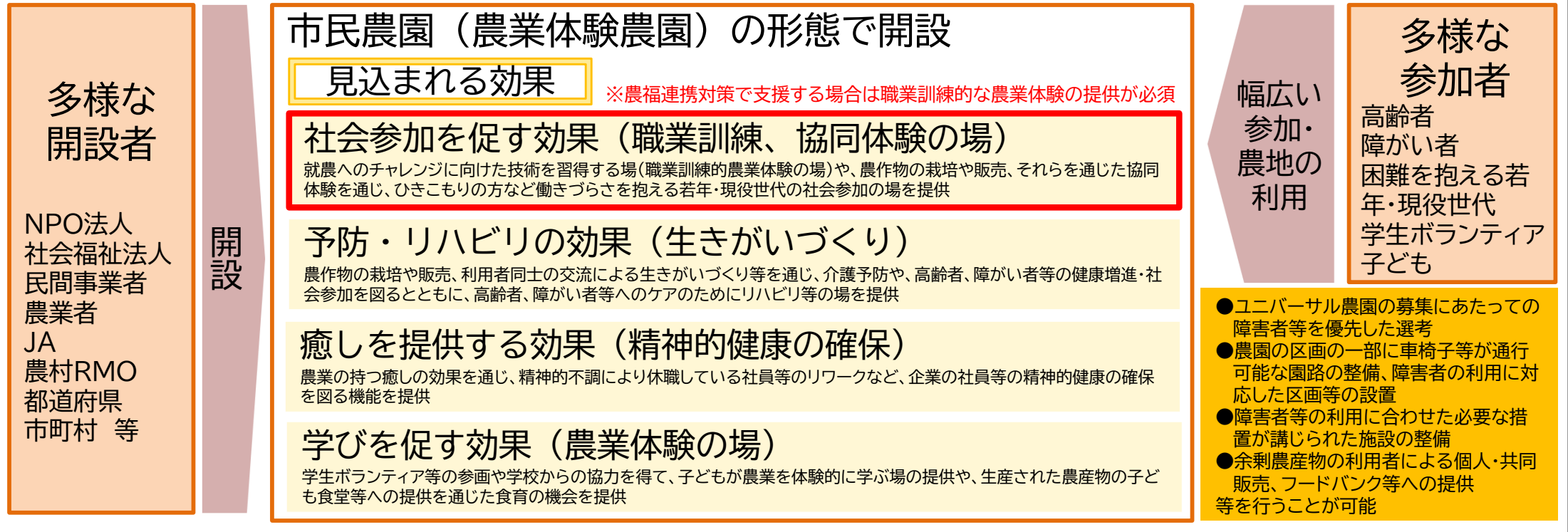
<p>都道府県専門人材育成支援事業</p>	<p>農林水産業の現場における障害者の雇用・就労に関してアドバイスする専門人材（農福連携技術支援者）※5、障害者就労施設等による農作業請負（施設外就労）のマッチングを支援する人材（施設外就労コーディネーター）等の育成</p>	<p>事業実施期間：1年間</p> <p>交付率等：定額</p> <p>上限：500万円／年</p>
------------------------------	--	--

※5 農林水産省のガイドラインに基づく研修を受講し、認定された者

※原則、併せ行うこと

- ユニバーサル農園とは、身近で農業に参画できる市民農園（農業体験農園）の活用を通じて、多世代・多属性の交流・参加の多様な場を農業を通じて生み出すとともに、生きがいづくりや精神的な健康の確保等の様々な社会的課題の解決にも資することを目的とするもの。
- ユニバーサル農園を通じて、多世代・多属性の参加者が、農業の持つ様々な機能に触れることで、その価値が広く認知されるとともに、将来の農業現場での雇用・就労を見据えた農業体験等の提供を通じた農福連携の推進や、農園の導入促進による農地の利用拡大も期待される。

ユニバーサル農園の開設イメージ

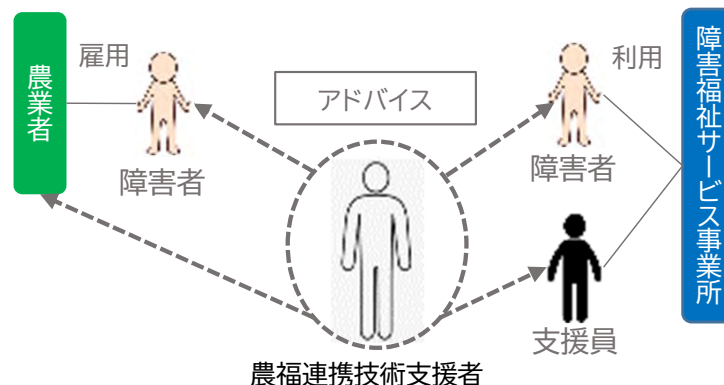


- 令和元年6月に決定した農福連携等推進ビジョンにおいて、「農業版ジョブコーチの仕組みを全国共通の枠組みとして構築し、専門人材を育成する」こととしており、令和2年度から、「農福連携技術支援者育成研修」(いわゆる「農業版ジョブコーチ育成研修」)を全国共通の枠組みとして実施。
- 本研修は、農林水産省が農林水産研修所つくば館水戸ほ場で実施するほか、研修プログラムを農林水産省が策定した基準プログラムに準拠させることで、都道府県が実施することも可能。
- 農林水産省は、全ての研修課程を受講し、必要な知識と技術を身につけたと認められる者を研修修了者として認定。認定された者は、「農福連携技術支援者(農林水産省認定)」として、現場において支援。

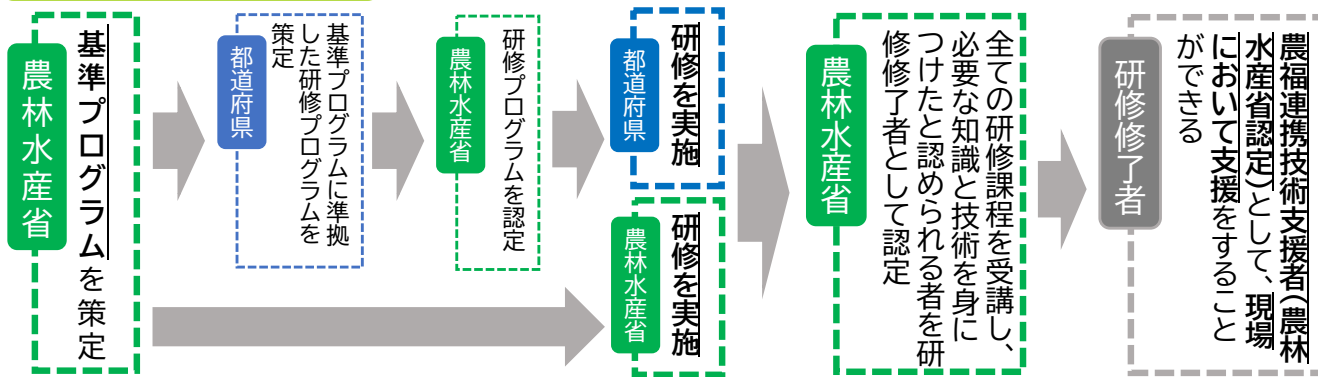
1. 育成する人材

農福連携技術支援者

- ①農業者
 - ②障害福祉サービス事業所の支援員
 - ③障害者本人
- の3者に対し、具体的に、農福連携を現場で実践する手法をアドバイスする人材。



2. 育成の枠組み



3. 基準プログラム

研修形式と期間

- (1)座学講義3日間程度
- (2)演習・実地研修4日間程度
- (3)修了試験(農林水産省が作成)

カリキュラム

- ・障害者雇用と障害福祉サービス事業の仕組み
- ・障害特性と職業的課題の基礎
- ・障害特性に対応した農作業支援技法
- ・農業者による農福連携の経営実務
- ・農作業における作業細分化・難易度評価の技法など

4. 研修の受講者

受講対象者

農業・福祉等の関係者を幅広く想定

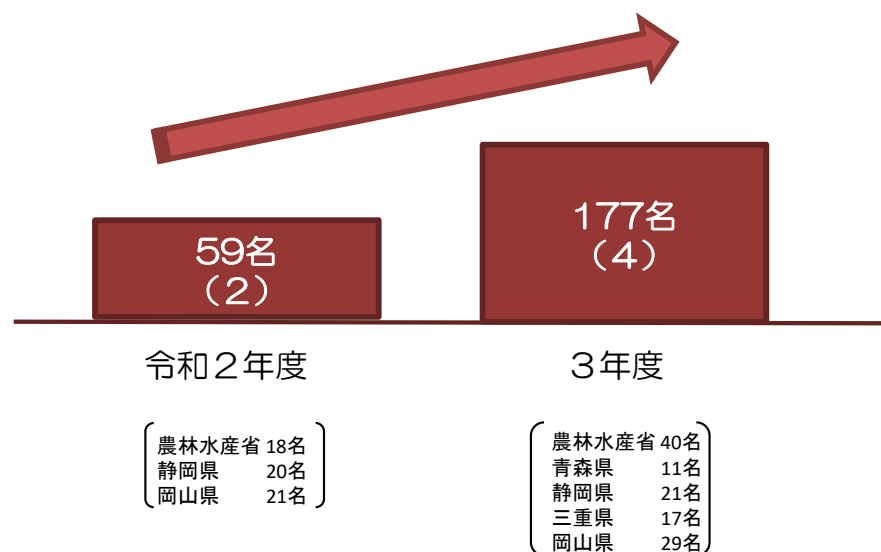
受講定員

各回につき20名程度

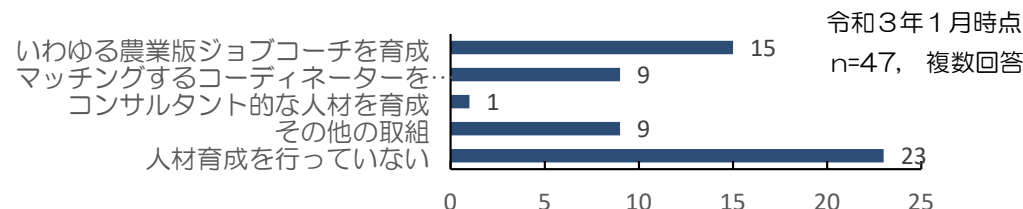
- 農林水産省は、農福連携に係る専門人材の育成のため、令和2年度から「農福連携技術支援者育成研修」を全国共通の枠組みとして実施。
- 令和2年度には、農林水産省及び2県において本研修を実施し、59名を農福連携技術支援者（農林水産省認定）として認定し、令和3年度には、農林水産省及び4県において本研修を実施し、118名の専門人材を育成した。
- また、都道府県においては、独自の取組として、農業版ジョブコーチ、施設外就労コーディネーター等の専門人材の育成に取り組んでいる。
- 農林水産省の研修により農福連携の専門人材を育成するとともに、都道府県の体制構築の支援も行い、都道府県が自律的に専門人材の育成ができるよう引き続き支援。

● 農福連携技術支援者数（実績）

（グラフ内のカッコの数値は実施県数）



● 都道府県による専門人材育成の取組状況



- いわゆる農業版ジョブコーチに相当する人材を育成（青森県、新潟県、岐阜県、岡山県、香川県、愛媛県）
- 福祉事業所向けの農業技術研修（長野県）
- マッチングを支援する人材を育成（静岡県、岡山県、香川県）
- 当省のガイドラインに基づく農福連携技術支援者育成研修（静岡県、岡山県）



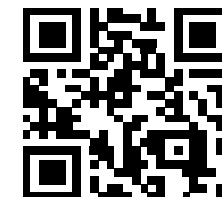
● 農福連携技術支援者研修実施県

令和2年度	静岡県、岡山県
3年度	青森県、静岡県、三重県、岡山県
4年度（予定）	静岡県、富山県、愛知県、三重県、岡山県、高知県、宮崎県

農福連携の認知度向上等に向けた取組

ノウフクWEBによる情報発信

令和3年3月、農福連携に関する情報を一元的に発信するための
農福連携専用ポータルサイト「ノウフクWeb」を開設
ノウフク商品を販売するノウフク・オンラインショップともリンク



ノウフクWEB
<https://noufuku.jp/>



みんなで耕そう! ノウフク・プロジェクト

ノウフク(農福連携等)が、社会にうねりを起こしています。

ノウ(自然、農林水産業)とフク(人、福祉)の連携から、多様な役割と場をつくり、一人ひとりの存在を喜べる共生社会へ。地域の様々な課題を解決し、その価値が語られる市場の創出へ。豊かさの意味を問い直す、持続可能な未来へ。

ノウフク・プロジェクトは、ノウフクの価値を循環させるためにみんなが主体になって参加できる、新しい社会デザインのしくみです。

ノウフク・プロジェクトについて



NOW

2023.07.14

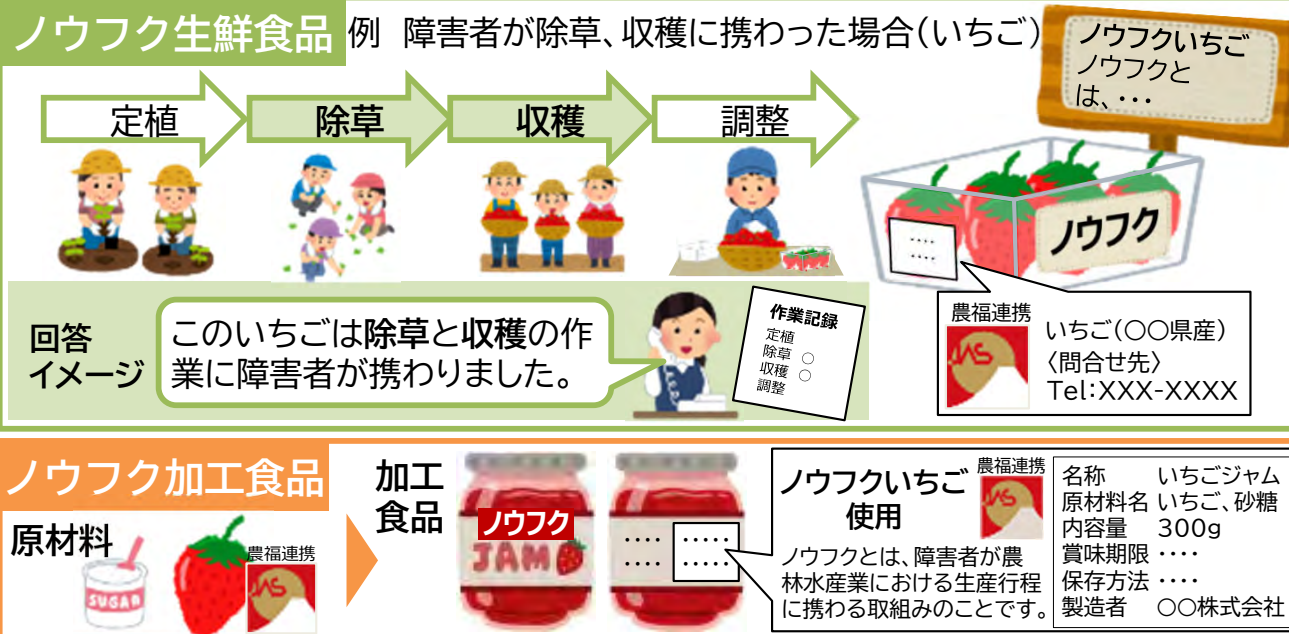
高山県

YouTubeチャンネルで「農福連携導入サポート動画」

- 農業分野での障害者就労の支援、農業の担い手不足や障害者の就労先不足など農業・福祉における諸課題の解消につながる「農福連携(ノウフク)」の取組が推進される一方で、ノウフクの取組が広く認知されていない状況。
- 障害者が携わって生産した農林水産物及びこれらを原材料とした加工食品の生産方法及び表示の基準を規格化することにより、次の効果が期待。
 - ① 障害者が携わった食品の信頼性が高まり、人や社会・環境に配慮した消費行動(エシカル消費)を望む購買層に訴求することが可能に。
 - ② 「農福連携(ノウフク)」の普及を後押しすることで、農業・福祉双方の諸課題解決ツールに。

規格等の内容

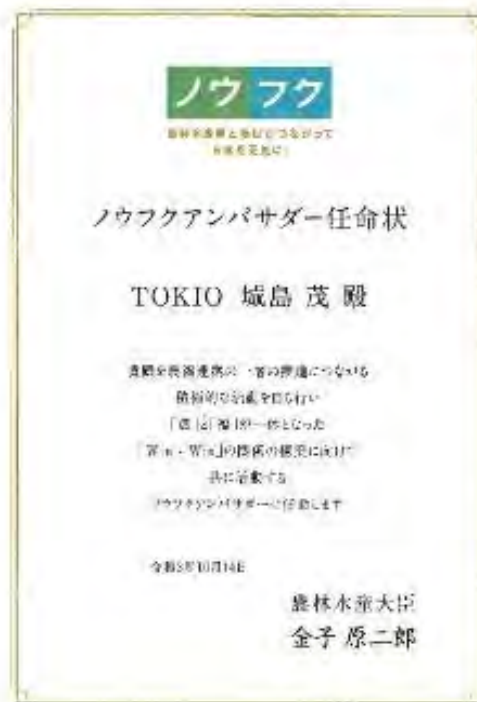
- 農林水産物の主要な生産行程に障害者が携わっている
- 障害者が携わった生産行程の情報提供
- 加工食品において使用する原材料やその管理
- 包装・容器等への表示の方法及び内容



- 農福連携に関しては、認知度の向上が課題の一つであるため、「農福連携等推進会議」の有識者を務める等、農福連携への関与の深いTOKIO城島茂さんを「ノウフクアンバサダー」に任命(令和3年10月14日)。
- 「ノウフクアンバサダー」は、ノウフク・アワードへの参加(表彰式のプレゼンター等)、現場の課題解決に取り組む場(ノウフク・ラボ)への参加、その他各種メディアを活用した情報発信の場への参加等を通じ、農福連携の認知度の向上に向けて、農林水産省と連携した活動を展開。
- また、城島茂さんは、農福連携の現場を紹介するTV番組への出演を通じて農福の魅力を紹介。

ノウフクアンバサダー

農林水産省とともに、農福連携の取組の輪の更なる拡大を目指し、情報発信の場への参加等を通じた農福連携の認知度向上に向けた活動を展開します。



TV番組によるプロモーション

「とれたて笑顔！」(R2)



TOKIOの城島茂さんが農福連携の現場にお邪魔し、収穫作業等を体験しながら、皆さんの笑顔の秘密に迫ります。

日本の旬のお野菜もたくさんご紹介。

出演者：城島茂(TOKIO)
放送日時：令和2年10月～12月
毎週日曜日12:54～
放送局：TBS(ただし関東エリアのみ)

「とれたてハッピー！」(R3)



働きたい！と願う人たちが、ひとつひとつ丁寧に作っている農産物は、きつととっても美味しいものに違いありません。

TOKIOの城島茂さんがそんな農福連携の現場にお邪魔し、収穫作業等を体験しながら、皆さんの笑顔の秘密に迫ります。

出演者：城島茂(TOKIO)
放送日時：令和3年10月～12月
毎週土曜日 9:25～
放送局：TBS(ただし関東エリアのみ)
※R3年度はJAグループがスポンサーとなって放映

テーマ：「農業」と「福祉」がつながって日本を元気に！～みんなで耕そう！ノウフク・プロジェクト～

開催日：令和3年11月22日（月）～11月26日（金）（11月23日（火）は祝日のため休館）＜4日間＞

来場者：295人

内容：「ノウフク・アワード 2020」受賞事業者のパネル展示や農福連携の取組によって生産された加工品やノウフク JAS 取得商品の展示、各都道府県で作成しているパンフレットの配布及び動画の放映を行いました。



アンケート抜粋

- ・農業は大切な分野なので、様々な人が取りくめることは良いことだと思った。
- ・障害を持つ方が実際に作業に携わっている様子をうつした映像がわかりやすくて良かった。
- ・障害の種類に応じて、どのような作業の分担をしているのか、もう少し詳しく知りたいと思った。パンフレットを見て勉強したい。
- ・農業は仕事の切り出しが可能で、多くの人に適性がある、ということが印象的だった。
- ・ノウフクJASがあることを知らなかった。全国各地に取組が広がっていることを知った。
- ・ノウフク商品を買ってみたいと思った。

今年度は、10月17日（月）～10月21日（金）に開催いたします！

令和4年度中に、農福連携に関する以下のセミナー、フォーラムを開催予定

(1) 農福連携セミナー

主に、これから農福連携を始めようと考えている方、農福連携に関心をお持ちの方を対象に、第一歩を踏み出すためのオンラインセミナーを開催予定

・第1回 令和4年8月29日(月) 13:00~16:00
総論、農業者・福祉団体・企業等による取組紹介

・第2回 令和4年11月を予定
総論、農業者・福祉団体・企業等による取組紹介

(※第1回とは説明者が異なる予定)

・第3回 令和5年1月を予定
農福連携への国の支援策等について(仮)

(2) 農福連携フォーラム

ノウフク・アワード受賞者等の優れた取組を地域で横展開すること等を目指し、ブロック単位でのフォーラムを開催予定(調整中)



農福がはじめてのあなたに。

農福連携 セミナー

参加費 無料

開催日時 8/29(月) 13:00~16:00

開催期間 8/29(月)~8/25(土)

場所 オンライン

農福連携とは

障害者等の就労の場の創出だけでなく、農業者の減少等の課題を抱える農業者と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを生んでいます。この機会に「農福連携」を知ってませんか？

講師紹介

市海大学 濱田健司教授

株式会社 八雲 大塚一弘氏

株式会社 八雲 フォーム 林義之氏

農福連携に関する方に向けて第一歩の取組【総論】【農業者】【福祉団体】【企業等】の各視点から講師による講演を行います。

01 農福連携が得るもの ～地域を元気づける多様な共益社会へ～

02 農業者と福祉団体の連携 ～農業者の課題と福祉団体の役割～

03 農業者と福祉団体の連携 ～農業者の課題と福祉団体の役割～

04 農業者と福祉団体の連携 ～農業者の課題と福祉団体の役割～

05 農業者と福祉団体の連携 ～農業者の課題と福祉団体の役割～

06 農業者と福祉団体の連携 ～農業者の課題と福祉団体の役割～

申込方法 申込はこちら

問い合わせ先 株式会社マイアーム

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 5F

TEL: 03-6435-3025

Email: info@myairoom.co.jp

主催: 株式会社マイアーム 協力: 農林水産省



←申込はこちらから

ノウフク・アワード2021でグランプリを受賞した社会福祉法人さんさん山城と農林水産省の動画を用いた広報媒体である「BUZZMAFF」のコラボレーションが実現し、「農福連携に取り組む現場を体感してもらうこと」をテーマとした動画を作成。（※再生回数:153,363回(7/25時点)）



グランプリ

社会福祉法人さんさん山城（京都府京田辺市）

- ・ 2011年4月、聴覚障害者が集い、働くことを通して社会の一員として活躍できる事業所「さんさん山城」を開所し、後継者がいなかった宇治茶の茶園を継承し、抹茶の元となる碾茶の栽培から開始
- ・ 現在は32名の障害者と共に宇治茶、京都えびいも、万願寺唐辛子、京都田辺なす、京夏ずきん等地域特産品の生産に注力
- ・ カフェを通じた市民等との交流、児童養護施設入所児童を対象とした農福体験の実施、京都市内の高級ホテル、料亭などにノウフクJAS食材を販売、市民を対象にした茶摘みの集いを開催



詳しい取組概要は
こちらから「QRコード」



「公務員の4時起き出張 in京都」

タガヤセキュウシュウの白石さんがさんさん山城を訪問し、ろう者の皆さんと手話を用いながら京野菜の定植を行う様子などを通じて、農福連携やさんさん山城の取組をご紹介します。



<https://www.youtube.com/watch?v=5LeZhRD6KhM>